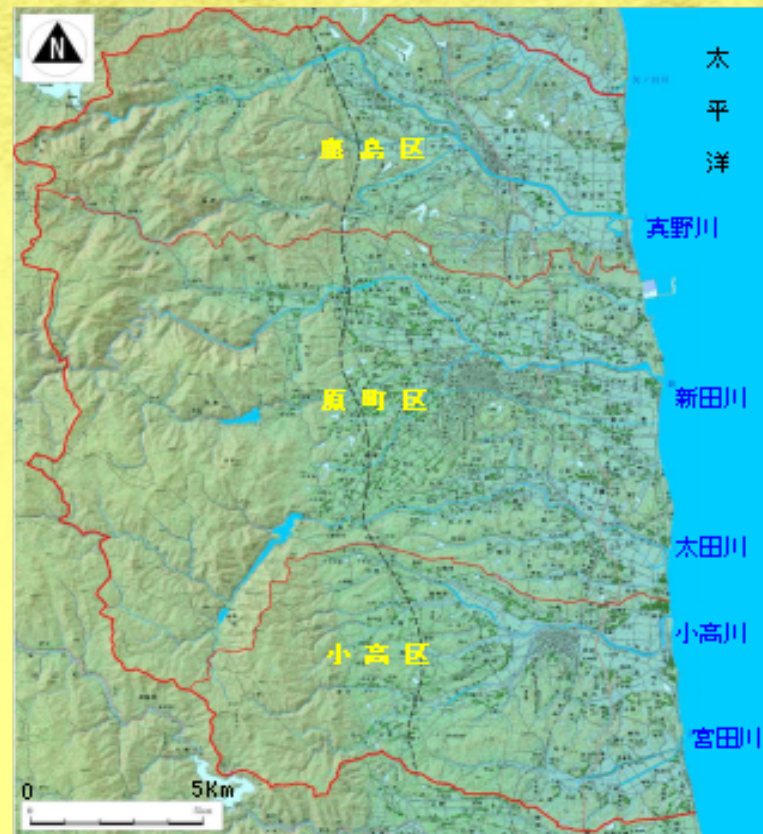




震災から5年 ～被災地南相馬市のいま～

南相馬市市民生活部
生活環境課 前田伸吾

はじめに～南相馬市について



南相馬市

平成18年1月1日、鹿島町、原町市、小高町の1市2町が合併して誕生。

人口 71,561 (平成23年3月11日)

2011. 3. 11 14:46発災

○南相馬市は震度6弱

・地震による家屋被害

全	壊	105世帯
大規模半壊		91世帯
半	壊	956世帯
一部損壊		2,527世帯



○津波到達と大きなダメージ

・死者 1,121人

(うち震災関連死 485人)

・津波による家屋被害

全	壊	1,165世帯
大規模半壊		83世帯
半	壊	171世帯
一部損壊		97世帯











被災した市民への対応

○避難所の開設

市内のあらゆる公共施設等約
40か所が避難所に



2011年12月末まで開設



市職員の勤務条件

項目	震災前	震災後
勤務時間	8 : 30 ～ 17 : 15	7 : 00 ～ 19 : 00 ※所属長の判断で交代制で24時間勤務もあり
休み	週休2日(土日)	週休1日(交代制)

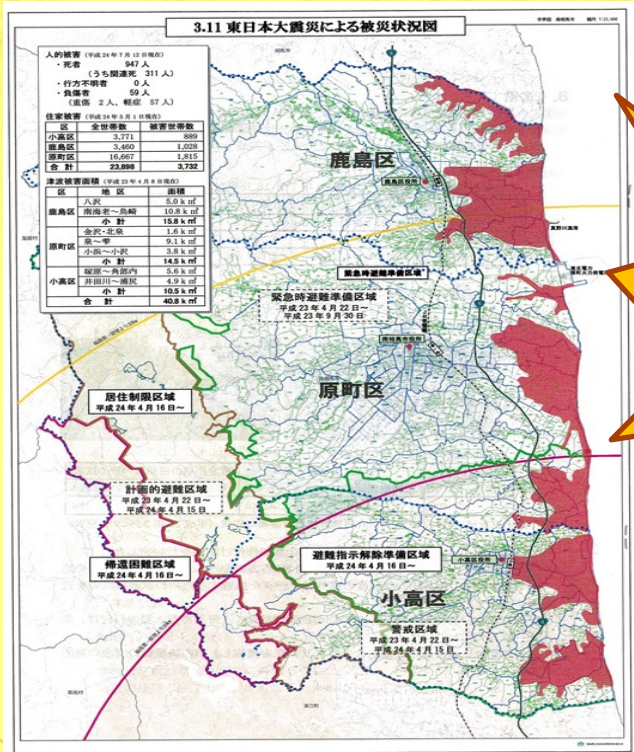
3月の人事異動は凍結！！

3月31日で定年退職予定だった職員は3か月間雇用延長！！

原発が爆発した！

3月12日 18:25
3月15日 11:00
4月21日 11:00
4月22日 9:44

福島第一原発から半径20km圏内の住民に避難指示
福島第一原発から半径20～30km圏内の住民は屋内退避の指示
福島第一原発から半径20km圏内を警戒区域に指定
福島第一原発から半径20～30km圏内の屋内退避を解除し、
計画的避難区域及び緊急時避難準備区域を設定



奇しくも合併前の3市町の境とほぼ符合！！



- 原発からの距離（～20km、20～30km、30km～）によって、市内が3つの地域に分断されてしまった。

放射能という得体の知れないもの

見えない

臭いもない

事前の知識も全くない

原発の状態はテレビで知る

不確かな
情報に右往
左往！！



市内の混乱

マスコミは避難
民間業者も避難
市民も徐々に自主避難



市内に食料やガソリン等物
資が入ってこなくなり、市
民生活はパニックに！



○市職員の役割

屋内退避のなか、り災証明発行のための被害家屋調査
離れ家畜の捕獲と殺処分
ガソリンの供給
身元不明遺体の火葬 等々 . . .

集団避難の決断

○3月15日～25日

市はバスで市民の集団避難
(群馬県、新潟県、長野県)
を誘導



約7万人の人口は約1万人に
まで減少



様々な分断

市民の集団避難に伴い、
各職場から同行する職
員を募った。



行くも地獄・残るも地獄



**職場
の分断**

家族は避難させた。

しかし、自分は仕事の
ため残らなければ・・



市職員も被災者



**家族
の分断**

心の分断

○例えば義援金受付の場合・・・

マスコミから義援金支給のプレスリリース
(市役所には詳細な情報が届いていない)



市民からの問い合わせ

(当然市役所は知っていると思っている。)



わからないと答えると激しく叱責・・・

(市職員が市民のストレスの受け皿になっていた)

根底には地域の分断（原発からの距離）によって支援の程度に差ができ、市民が大きなストレスを負ってしまったことがある。→ 心の分断

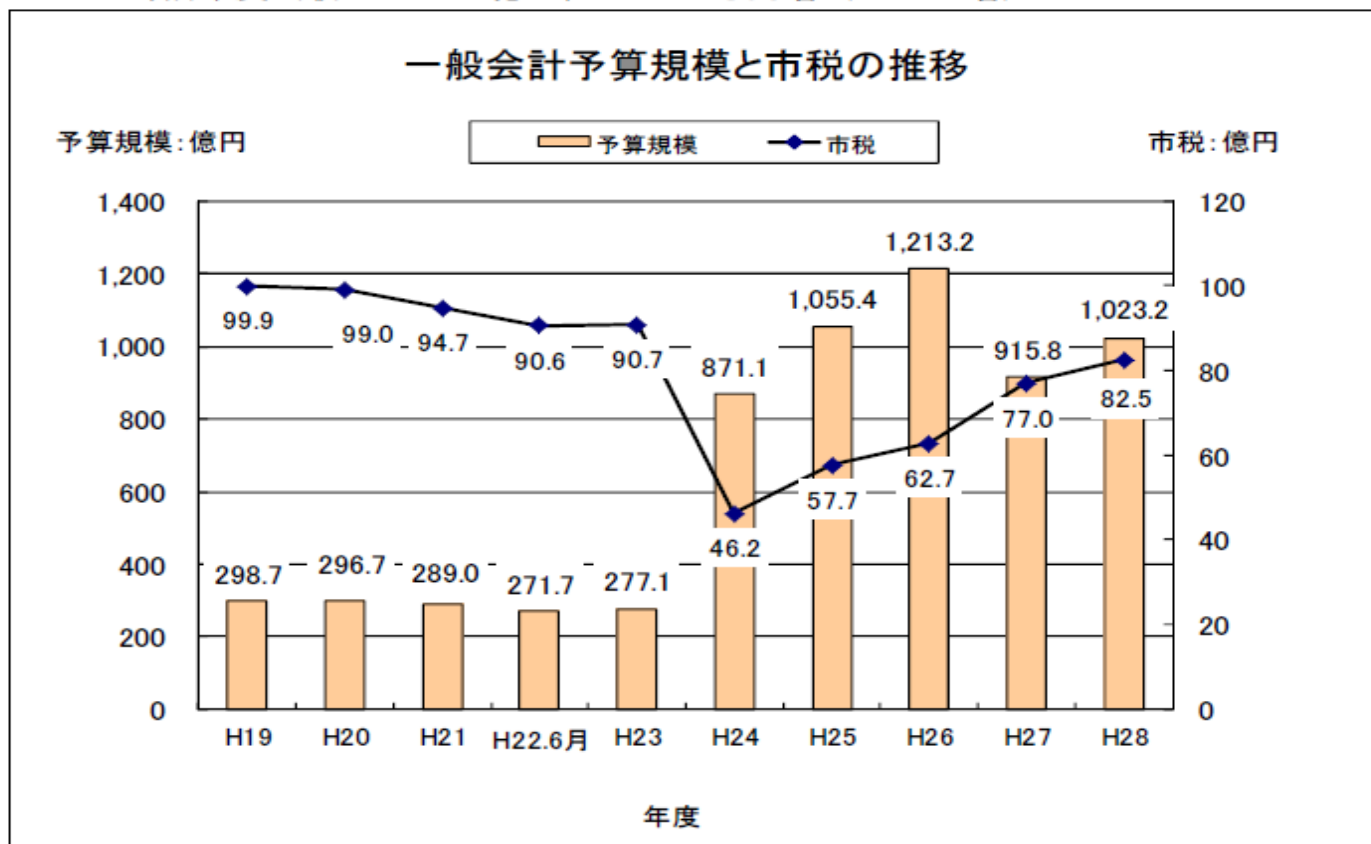
終わりのない復旧・復興業務

(2) 一般会計の予算概要

① 予算規模

一般会計の予算規模は、1,023億1,598万5千円となった。

対前年度当初比107億3,761万円増(11.7%増)



*実質的な当初予算ベースとするため平成22年度は補正後としている。

職員（組合員）数の推移

組合員（労働組合に加入している職員）

2010年	754人	（震災前）	
2011年	669人	（震災前比	－85）
2012年	683人	（震災前比	－71）
2013年	722人	（震災前比	－32）
2014年	752人	（震災前比	－2）
2015年	748人	（震災前比	－6）



震災前とほぼ同程度の人員で3倍以上の事業をやっている！！

止まらない早期退職

○2012.2.25日（土）毎日新聞記事より

『南相馬市の早期退職者 1割を超える101人に』
今年度の市職員の早期退職者が、全職員の1割を超える101人に上ることが分かった。

市によると、前年度（21人）の約5倍。
看護師など医療職が68人、一般行政職では33人とのこと。

市長は、「職員に負担がかからない態勢を作る」と述べ、人員増を図る考えを明らかにしているという。

襲いかかるメンタルヘルスの問題



○原発周辺の2自治体

うつ病の症状を訴える職員の割合

A自治体・・・15.2%

B自治体・・・21.1%

○参考

日本で1年間にうつ病になる人・・・1～2%

そのとき労働組合は・・・

労働組合とは・・・

- 労働者の連帯組織であり、誠実な契約交渉の維持・賃上げ・雇用人数の増加・労働環境の向上などの共通目標達成を目的とする集団である。その最も一般的な目的は、「組合員の雇用を維持し改善すること」である。

公務員が組織する労働組合のひとつ



全日本自治団体労働組合
(自治労)



南相馬市職員労働組合

南相馬市職員労働組合の取り組み

震災の年度（2011年度）の主な取組

- 人員確保の取り組み
- 震災対応に係る勤務体制に対する取り組み
- 超過勤務手当支給に対する取り組み
- 職員の健康問題(メンタル含む)に対する取り組み
- 職員の県外避難所派遣に対する取り組み
- 病院職場を守る取り組み
- 自治労復興支援活動への取り組み



南相馬市の主な復興状況①

○市民の避難状況（参考：2011.3.11 人口71,561人）

住民基本台帳ベース(単位:人)

区分		(参考) H26.4.3	(参考) H27.4.2	H28.4.15	H28.5.15	前月からの 増減
住民登録人口	①+②+③+④ 市全体	64,148	63,555	63,254	63,437	183
市外避難者数	① 市全体	14,438	12,411	10,364	10,272	△ 92
	(小高区)	5,316	5,067	4,717	4,713	△ 4
	(鹿島区)	820	609	447	442	△ 5
	(原町区)	8,302	6,735	5,200	5,117	△ 83
市内仮設住宅 入居者数	② 市全体	5,508	4,872	3,651	3,563	△ 88
	(小高区)	3,457	3,219	2,671	2,627	△ 44
	(鹿島区)	784	548	261	246	△ 15
	(原町区)	1,267	1,105	719	690	△ 29
市内借り上げ住宅等 入居者数	③ 市全体	3,775	3,716	3,556	3,554	△ 2
	(小高区)	2,367	2,440	2,489	2,479	△ 10
	(鹿島区)	222	192	151	153	2
	(原町区)	1,186	1,084	916	922	6
自宅	④ 市全体	40,427	42,556	45,683	46,048	365
	(小高区)	-	-	0	0	0
	(鹿島区)	-	-	9,951	9,986	35
	(原町区)	-	-	35,732	36,062	330
他市町村からの 避難者数	⑤ 市全体	1,966	2,103	2,326	2,326	0
市内居住人口	②+③+④+⑤ 市全体	51,676	53,247	55,216	55,491	275

死亡 / 転出 259人
出生 / 転入 442人

死亡 5人
転出 45人

死亡 10人
転出 9人

死亡 13人
転出 26人

死亡 35人
転出 116人

南相馬市の主な復興状況②

○仮設住宅入居率（入居率は減少傾向）

参考：市内仮設住宅入居状況 平成28年5月15日現在

	戸数	入居戸数	入居率	残戸数
鹿島区	2,184	1,409	64.5%	775
原町区	681	591	86.8%	90
合計	2,865	2,000	69.8%	865

（市外仮設住宅入居状況）

	割当戸数	入居戸数	入居率	残戸数
相馬市	254	94	37.0%	160
新地町	-	54	-	-

資料提供：建築住宅課

○住宅関連

・宅地造成事業

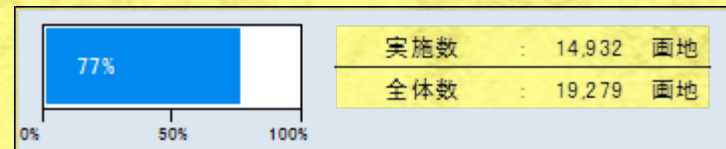
本市へ定住を希望する原発被災者及び津波罹災者に対し今年度中に68区画の分譲住宅地を提供する。

・県復興公営住宅の整備

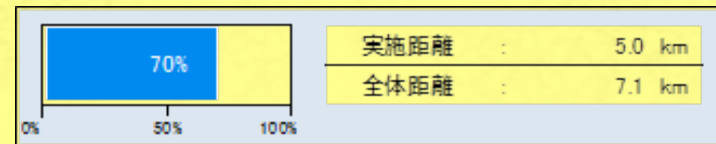
原子力災害により避難指示を受けている方（南相馬市以外の避難者含む）が、低廉な家賃で入居できる公営住宅927戸分の整備を今年度進めている。

○除染関連（20km圏外 4.15現在）

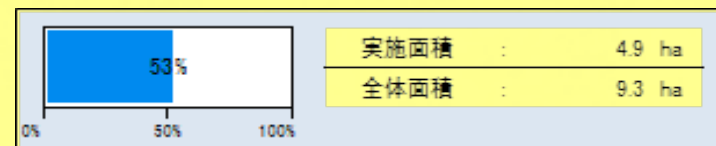
・生活圏除染



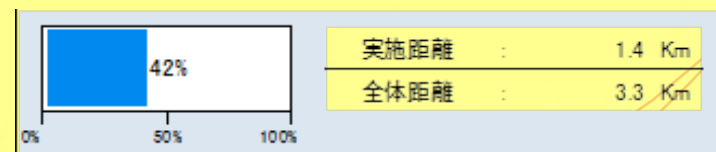
・農地除染（水路）



・農地除染（農地）



・農地除染（農道）



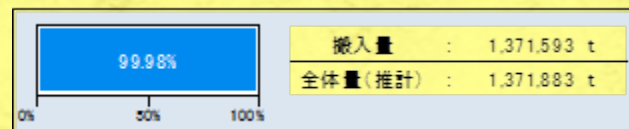
南相馬市の主な復興状況③

○道路復旧（市事業）

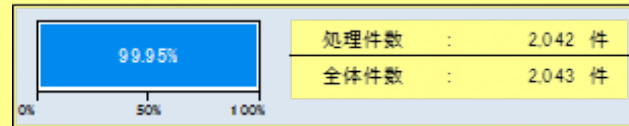
区域	被災概要	完了予定	被災箇所	工事発注	完了	完了率
避難指示区域	地震災害道路	完了	92	92	92	100%
	津波災害道路	29年度内	35	29	29	83%
	橋梁災害道路	29年度内	5	4	4	80%
その他の区域	地震災害道路	完了	73	73	73	100%
	津波災害道路	29年度内	46	37	37	80%
	橋梁災害道路	完了	4	4	4	100%

○災害廃棄物撤去

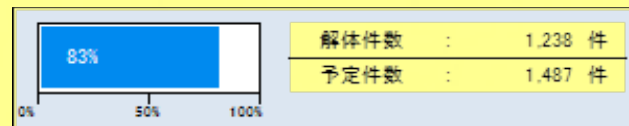
- ・災害がれき搬入率（避難指示区域外）



- ・家屋解体実施率（避難指示区域外）



- ・家屋解体実施率（避難指示区域内）



最後まで残るのは放射線対策

○主な放射線対策

- ・ 内部被ばく検診
(ホールボディカウンター)
- ・ ガラスバッジ貸与
- ・ 簡易線量計の配布
- ・ 食品放射線検査
- ・ 空間線量モニタリング
- ・ 大気浮遊じんモニタリング



市民の健康不安を取り除く明確な答えがないため、市は可能な限りデータを集め、公表し、安全かどうかは個人の判断にゆだねるしかない！

環境放射線モニタリング結果

問合せ 生活環境課 ☎5 2 3 1

今回は平成27年5月15日と平成28年5月15日と比較して掲載しました。※測定時刻は正午、単位は、マイクロシーベルト/時、地上1m地点で測定

測定地点	2015.5.15	2015.5.15	測定地点	2015.5.15	2015.5.15	測定地点	2015.5.15	2015.5.15
機本町児童センター	0.139	0.123	小高浄化センター	0.096	0.134	水渡公会堂	0.130	0.164
小川公園	0.100	0.111	片立浄化センター	0.178	0.198	南楠木農村公園	0.142	0.179
原町保健センター	0.113	0.131	小高浄化センター	0.109	0.118	北原形公民館	0.094	0.093
南分行会入口	0.113	0.152	小高浄化センター	0.164	0.204	南原形公民館	0.132	0.132
相模農林高等学校	0.075	0.089	大井会堂	0.122	0.130	水田公会堂	0.123	0.163
上町児童センター	0.110	0.142	小高老人福祉センター	0.131	0.142	島津浄化センター	0.074	0.074
原町高等学校	0.075	0.074	小高区役所	0.074	0.092	鹿島区小島田消防屯所	0.130	0.158
国見団地中央公園	0.115	0.167	横間公会堂	0.124	0.128	島崎公会堂	0.068	0.083
仲町児童センター	0.097	0.117	泉沢浄化センター	0.152	0.179	川子公会堂	0.141	0.174
牛越西公園	0.121	0.155	開田公会堂	0.143	0.177	北海老農村公園	0.128	0.160
牛越生活改善センター	0.152	0.152	上能沢公会堂	0.134	0.149	江里研浄化センター	0.162	0.197
原町老人福祉センター	0.203	0.243	下能沢浄化センター	0.133	0.163	坂平山公園	0.142	0.182
北町公園	0.096	0.105	洞院寺大蔵防火水槽	0.171	0.192	大内公会堂	0.082	0.083
下川原公園	0.101	0.120	下浦公会堂	0.143	0.162	大谷地公民館	0.206	0.233
金沢公会堂	0.092	0.107	女場公会堂	0.112	0.129	上寺内公民館	0.151	0.191
泉公会堂	0.111	0.116	小高区3-10屯所	0.133	0.168	坂平山公園グラウンド	0.170	0.204
高平児童館	0.083	0.088	下耳谷公会堂	0.146	0.175	寺内公民館	0.211	0.237
グリーン原町センター	0.123	0.145	行達公会堂	0.191	0.214	鹿島保健センター	0.145	0.156
上北高平三基松浄化	0.196	0.262	上浦公会堂	0.200	0.223	鹿島区役所	0.150	0.178
上北高平二基浄化	0.157	0.175	神山公会堂	0.226	0.296	西町会堂	0.195	0.233
上北高平一基浄化	0.227	0.333	小高浄化センター	0.124	0.166	沼ノ内児童公園	0.089	0.094
西原公園	0.119	0.162	白名公会堂	0.128	0.196	港戸児童公園	0.107	0.112
福島県南相模庁舎	0.088	0.099	内野沢浄化センター	0.274	0.367	鹿島区公民館上町分館	0.180	0.190
新公園	0.106	0.111	飯崎公会堂	0.326	0.429	さやのまえ公園	0.090	0.094
原町第一下水処理場	0.144	0.198	小高浄化センター	0.152	0.176	J-A525野原センター	0.106	0.137
市立総合病院	0.158	0.176	大田和公会堂	0.264	0.339	白坂公会堂	0.115	0.143
坂井古墳公園	0.164	0.196	川原公会堂	0.359	0.453	横手消防屯所	0.140	0.155
上池沢公会堂	0.092	0.091	金谷公会堂	0.190	0.241	開和田公会堂	0.172	0.220
北原浄化センター	0.141	0.171	北橋原公会堂	0.196	0.384	浮田多目的集会所	0.131	0.190
日の出公園	0.095	0.111	南橋原公会堂	0.235	0.346	小山田消防屯所	0.143	0.173
原町学園	0.180	0.224	原野浄化センター	0.299	0.412	鹿島西部コミセン	0.178	0.196
上田多目的集会所	0.173	0.215	小高浄化センター	0.157	0.215	鹿島公民館原分館	0.186	0.229
野原浄化センター	0.087	0.089	大宮浄化センター	0.141	0.172	山下行政区域集会所	0.102	0.123
浄化センター	0.078	0.088	羽倉公会堂	0.132	0.284	上柳浄化センター	0.282	0.324
小浜公会堂	0.093	0.099	駅前北公園	0.105	0.118	上柳藤原村公園	0.118	0.147
堤谷消防屯所	0.092	0.089	しらゆり公園	0.121	0.125	あーす	0.137	0.170
江井浄化センター	0.124	0.147	東町児童センター	0.079	0.092	松原公会堂	0.144	0.175
			旭町ちびっこ広場	0.093	0.114	柳山公会堂	0.174	0.213

大気浮遊じんモニタリング結果

問合せ 生活環境課 ☎5 2 3 1

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m当たりの浮遊放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点	放射能濃度 (mBq/m ³)	4/6~4/19	4/13~4/20
川原公会堂 (川原)	セシウム134	0.027	0.026
金剛小学校 (飯崎)	セシウム137	0.099	0.140
原町児童センター (原町)	セシウム134	0.020	0.033
原町児童センター (原町)	セシウム137	0.098	0.160
鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	0.024
鹿島区役所 (西町)	セシウム137	0.039	0.073
鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	0.043
横川ダム (馬場)	セシウム137	0.062	0.043
原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	0.045
原町保健センター (小川町)	セシウム137	0.035	0.045
高平生活学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	0.090
高平生活学習センター (下高平)	セシウム137	0.065	0.090
市立総合病院 (東見町)	セシウム134	不検出	0.049
市立総合病院 (東見町)	セシウム137	0.049	0.071
大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	0.061
大原公会堂 (大原)	セシウム137	0.038	0.061
	セシウム134	不検出	0.015
	セシウム137	0.079	0.081
	セシウム134	不検出	0.015
	セシウム137	0.079	0.081
	セシウム134	不検出	0.015
	セシウム137	0.079	0.081

渡辺正己京都大学名誉教授

(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

前号で解説した通り、平成28年4月から放射能サンプリングと測定条件が変更されました。それによって放射能の検出感度が上がり、放射能検出限界値が小さくなったため各測定地点でセシウム137の飛散が観測されるようになりました。

一方、飛散している放射能濃度は、4月以前の測定法の結果に比べ10分の1程度に低下しています。今回の最大値は0.16mBq/m³ですが、仮にこの濃度の空気を1年間吸い続けたとしても、それによる内部被曝量は、およそ0.00006mSvで、天然の放射能を吸い続けた場合の10,000分の1程度で健康に影響を与えることはありません。

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

復興の加速化と新たな問題

- ・ 復興に従事するため大量の人口流入

➡ 交通事故の増加

➡ 治安の悪化

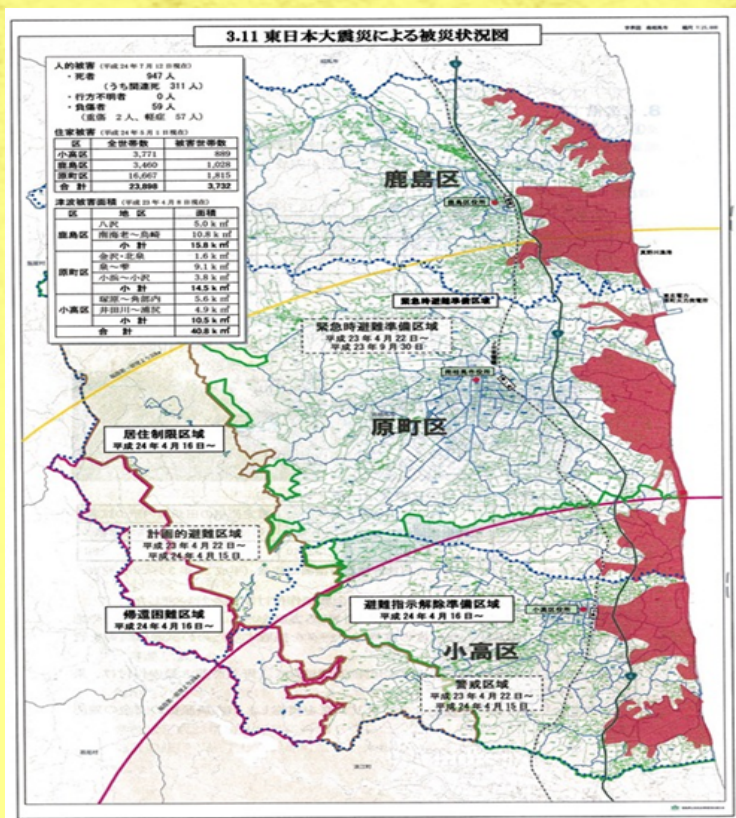
➡ 住民トラブルの増加



「みんなでつくるかがやきとやすらぎのまち南相馬」をめざして

分断されてしまった地域

南相馬市復興総合計画



第3編

第1章 前期基本計画における施策展開



基本構想

前期基本計画

原発事故によって分断されてしまった地域、コミュニティの復活が南相馬市の復興には最重要と考える。